

【11.18 近畿地連統一行動】

# 2020 年末闘争

## 近畿地連加盟組合 委員長メッセージ

折からの放送業界の不振に加え、我々を襲った新型コロナの影響は、各単組の年末闘争にも大きな影響を与えています。厳しい一次回答の中、実のある回答を勝ち取っている労組もあります。こういった状況下でどのような戦略をもって挑んでいくのか。こういった形で収束へ導くのか。近畿地連加盟組合の執行委員長からのメッセージをいただきました。交渉相手はもちろん違いますが、置かれた状況はみな同じです。こういった状況であるからこそ、会社は社員を守り、それが社業を守る事、業界を維持することへとつながると考えます。あきらめず、交渉を続けていきましょう。また、このメッセージは11/18に加盟組合一斉で発行されます。以降、順不同でご紹介いたします。

### 近畿地連 執行委員長 藤井 一也

一次回答は出揃っていませんが、軒並みダウン回答と各社厳しい状況です。特に準キイ局では前年同年齢比で16%~31%と大幅のダウンでした。近年、会社は準キイ局を中心に、一時金について業績連動という考え方を強めています。各単組、それぞれ対抗して交渉していますが、会社の内部留保は増えています。業績連動と言いながら好業績の時は少しだけしか一時金を上げず、業績が悪くなると一気に一時金を下げようとする会社の本心が見えた回答だったと言えます。改めて業績連動に対抗するべく、財務分析を活用するなどして、本当に一時金を下げなければならないほどの経営状況なのか、分析して闘う2020年末闘いにしましょう。

### 関西テレビ放送労働組合 執行委員長 田中 拓朗

売上実績からは考えられない、ダウン幅30%超え。後でわかったことですが、30%以上のカットは在阪局でも唯一です。コロナ禍で厳しいのはわかります。ですが傷みは皆さん同じはず。なのに弊社だけが不当にカットされているこの事実、社員が原因であることは万に一つもありません。1%の疑義もなく完全に経営陣の手腕の問題です。厳しく追求していきたいと思えます。

## 奈良テレビ放送労働組合 執行委員長 岡島 達人

ともすればコロナ禍の影響を労使とも言い訳にできてしまう、そんな状況の中で冬闘回答指定日を待った。出された回答は昨冬実績 1.7 カ月。会社は「とんでもなく、売り上げ・利益が下がっているが一時金を下げることはしたくない。他局のようにカットはやめよう、みんなも頑張っているし、頑張ってもらうためにも」。これが社長の思いであるとした。その思いは組合としてもしっかり受け止めつつ、諸要求、未解決春夏闘とセットで答えを出したい。言い訳にしないよう、しっかり悩んで考えて。

## ytv Nextry 労働組合 執行委員長 水田 年昭

コロナ禍で会社の業績は厳しいと思われましたが、中間決算では減収増益でした。このことは我々従業員の努力の成果です。一時金については春夏闘で確定していますが、労働環境・労働条件をしっかりと勝ち取るために 20 項目を要求しました。一次回答では 5,000 円のクオカード支給の要求を上回る、同一労働同一賃金還元・コロナ禍業務慰労金 20,000 円の回答。定年延長、シニアスタッフ待遇改善の研究を始め、今後とも精査していくとの口頭回答。しかし重要項目である定年延長の時期については明確な答えがありませんでした。未来を明るくするために粘り強く闘っていきましょう。

## 京都放送労働組合 執行委員長 古塚 幸一郎

コロナ禍でも生活を守るためこれまで通り確実に要求を実現する構えで闘っている。秋闘ではコロナ感染防止8要求を全て実現した。とりわけ派遣社員の休業保証をKBS京都が負担するという回答は、全国的にも注目された。年末一時金は、1次回答去年比減だが大幅ではない。労使関係の反映である。過去最高年収となる一時金を必ず勝ちとる。その他リモート手当など含め 15 要求を解決要求に決めた。コロナ感染を克服しながら解決要求すべてとりきる決意である。

## サンテレビジョン労働組合 執行委員長 花田 充弘

回答内容について、一時金以外はゼロ回答となった。その一時金も昨冬実績マイナス6万円となった。会社は、売上が下がっているが、なんとしても黒字を達成したいというのだが、その黒字は私たちが頑張っていて稼いだものであり、労働者に還元しないなんてありえない。サンテレビでは過去に大きく一時金が下げられたものの、近年は安定して同じ算式での回答を続けてくれていた。本来組合は賃金を上げるために闘っているが、算式を会社を変えない、つまり下げないことで労使関係がうまくいっていたと思っていたのだが、これでは新社屋移転にも労働者は力が入らない。ここで妥協しては今後また下げられる。諸要求を含め、我々が納得のいく回答を会社は示し、多忙な時期を皆で乗り越えられるような再回答を求める。

## 和歌山放送労働組合 執行委員長 林 輝

WBS労組は、統一要求提出日から遅れ、現在来週的一次回答を待っている段階ですが、大会では、コロナ禍とは関係なく続いてきた、長年の労務費抑制の経営政策を跳ね返すべく、一時金や年末年始手当等について、例年通りの水準で要求することで一致しました。また、相次ぐ定年退職への対応(社員採用と再雇用者労働条件の整備)をはじめ、策定されないままとなっている今後の経営方針についても、解決を求めて要求することで一致し、回答を求めています。

会社は働くものの生活を守り、地域に根差した放送文化を発展させる責任があるのではないのでしょうか。「自滅の刃」にならないよう、20 年末闘争をともに頑張りましょう！

## 毎日放送労働組合 執行委員長 高島 一邦

ここ数年放送局の広告収入が激減する中、今年は新型コロナウイルスが世界中に蔓延するという想像しなかった事態が起っています。会社はコロナ禍の影響による業績悪化を理由に、一時金を大幅に下げる回答を出してきましたが、我々組合員からは、「ウイルス感染防止に努めながら、日々懸命に業務を行っている」、「私たちはコロナを理由に手を抜くような仕事はしていない」という声が多く集まりました。MBSで働くすべての仲間のいのちと健康、暮らしを守っていくという原点に立ち戻り、年末交渉を闘っていきたいと考えます。

## 朝日放送労働組合 執行委員長 古川 昌希

今年の年末交渉は大荒れです。この春に投資した海外の映像配信事業が事業停止に陥ったことにより、巨額の損失が出るとの予想。原因究明や経営陣の責任の取り方について会社と議論している最中始まった年末交渉。コロナによる業績不振によりダウンは予想していましたが、それをはるかに上回る下げ幅の前年同年齢比 19~25%ダウン。投資に失敗するわ、業界の難局は乗り切れないわ。経営陣の存在意義っていったい何なんでしょうか。深夜交替勤務ストを検討しており、今後全面ストに近い形での拡大も視野に入れています。この数週間が正念場になります。

## ラジオ関西労働組合 執行委員長 辻 正明

コロナ禍で赤字が膨らんでいる状況下での年末要求となった。勤怠管理を理由にリモートワークを推奨していないラジオ関西では、変わらず全員が出勤し、残業が常態化しつつあることを踏まえ、例年同額の一時金要求とし、直雇用の勤務者にも例年同額の冬季奨励金を要求。会社は要求について一定の理解を示しつつも、一次回答での一時金は過去2番目の低水準。引き続き、一時金、勤務状況の改善や、今後の番組編成・人材育成等、組合が要求する項目について、通り一辺倒ではない真摯な回答を求めていく。

## 読売テレビ放送労働組合 執行委員長 山本陽

コロナ禍における会社業績の落ち込みを不況宣伝され、私たち読売テレビでは賞与で乗率ダウンも含め、30歳標準者の前年比で約40万円の減額が提示されました。赤字業績とはいえ、ここまでの減額を受け入れることは到底できません。乗率は4.2ヶ月を何とか保持しておりますが、総額で見ると、まだまだまだまだ不十分です。新型コロナウイルスの感染拡大で社会全体が沈む中で、私たちテレビの役割は一層大きくなっています。その重責に見合う回答を強く求めていきます。

## 民放労連近畿地区労働組合執行委員長 平石 波津美

近畿地区労組は各分会とも、働く環境を良くするための要求を掲げ、年末闘争に取り組んでいます。コロナ禍で働き方が変わり、なかなか仕事へのモチベーションが上げれない、今の状況の中、「コロナ」だけを理由に「賃金を上げれない」と会社は決まり文句のように言います。しかし今だからこそ、経営者は働く人へ投資し、全体の志気を高め、この状況を共に乗り越える姿勢を見せるべきです。未来が見えない会社には、人材が集まるわけがありません。会社は何を一番に大事にすべきか、根本を見直すべきです。

近畿地区労組は、その特性を活かし更に各分会の連携を強め、一つ一つ成果を勝ち取り、将来につながる回答を引き出すために共に力を合わせて闘います。

2020.11.18